



優れた、より良い福祉コミュニティをめざして

ふれあいネットワーク

まほろば

社協広報

第85号



生きがいつくりで日々の生活に楽しみを！

コミュニティハウス建部の里では、利用者の皆さんと一緒におやつ作りや漬物作りをしたり、日々の様々な出来事を話して、わっと笑ったり、とても賑やかに過ごしています。

デイサービスセンターいちいの里では、ボランティアさんをお招きして、迫力ある太鼓の演奏や、バンドの演奏に合わせて一緒に歌い、地域の方との交流を楽しんでいます。

季節の移り変わりを感じて、日々の生活を楽しんでいただけるように、外出や外食、新年会やクリスマス会など様々なイベントを企画しています。

私たち社会福祉協議会は、利用者の皆さんが生きがい感到に満たされた暮らしができるように、これからも一緒に歩んでいきたいと考えています。

詳しくは6ページをご覧ください。

山形村総合防災訓練

いざという時に力を合わせて.....	1・2
令和元年度 普通会員会費納入結果	3
共同募金運動にご協力ください.....	4
子どもひろば開催.....	5
まほろばトピックス～事業所のできごと～.....	6
振り込め詐欺等防止勉強会／ 終活の基礎セミナーのお知らせ.....	7

▶▶▶▶▶ 山形村総合防災訓練

9月1日(日)村内各地区において、山形村総合防災訓練が行われました。

今年は、小坂地区と上竹田地区で避難所の開設訓練を行い、他の4地区では避難所運営ゲームHUGとひなたを使った図上訓練を行いました。今回は中大池地区と小坂地区、上竹田地区への取材を行いました。

◀▶▶▶▶ 自主防災会の皆さんと協働 ▶▶▶▶▶

今年度は、役場の方から「避難所の開設や運営の実施訓練を6地区一斉に行うことができないか？」というお話をいただき、開設訓練の準備が始まりました。

社会福祉協議会 地域福祉・VC（ボランティアセンター）係では、今まで災害ボランティアセンターの立ち上げ訓練を独自に行なってきました。様々な災害が起こった際に、復興支援としてボランティアの受け入れをする災害ボランティアセンターも、最近では各地域（常会）単位での情報収集が必要と言われ、サテライト型の災害ボランティアセンターが立ち上げられています。そのため、ニーズ（被災者が求めていること）をキャッチするためには、地区の生活拠点となる『避難所』の状況把握が重要です。だからこそ地区防災について皆さんと一緒に考えていきたいと思い、今回のお声掛けに協力させていただきました。

長野県社会福祉協議会で様々な被災地支援に携わっている福澤信輔氏にも講師をお願いし、話し合いを重ねる中で、6地区一斉に開設訓練を行うことが難しいため、今年度は2地区に絞り、他の4地区は避難所運営ゲームHUGとひなたの図上訓練を行うことになりました。

自主防災会の皆さんには避難所の運営側となり、自分たちの役割や想定も含めて考えてもらい、避難所運営のイメージや、きっかけづくりになればと今回の訓練を実施しました。

中大池地区

中大池地区では『避難所運営ゲームHUG』を使用した図上訓練を行いました。

HUGは避難所のH、運営のU、ゲームのGの頭文字を取ってHUG（ハグ）と読みます。これは『避難者の年齢、性別、国籍や、それぞれが抱える事情が書かれたカードを、避難所に見立てた平面図にどのように配置するのか、また、避難所で起こりうる様々な出来事にどう対応していくかを模擬体験するゲーム』です。

実際の第1公民館と語り部の館の平面図と航空写真を使い、グループに分かれてゲーム開始！避難者1人当たりに必要な面積は畳約1畳半程の3㎡と言われており、カードを避難者に見立て『運営側としてどのように振り分けるのか』を考えてもらいました。避難者以外にも『災害対策本部から毛布200枚が届くので荷下ろしする場所を決めてください』『咳と熱がひどいのですが、どこかに部屋はありませんか？』など、避難所で起こりうる様々な事柄が書かれたイベントカードにも対応してもらいました。

それぞれのグループで話し合う中で「体調の悪い人は別の部屋の方がいいな」「ペット?! 外の遊具の辺りか?」「届いた毛布は一旦押入れへ入れるか」など、グループごとに意見を出し合っていました。

話し合ってもらった内容の中で一例を挙げると、冬に流行するインフルエンザなどの症状がある方を、部屋が無いからと健康な方と同室にしてしまうと一気に感染が拡大し、特に免疫力の低い乳幼児や高齢者は重症化して、最悪の場合死に至ってしまうことがあります。なので、別室で対応しなければいけないと言われていました。また被災地では、車内で避難生活をしていた方が疲労による心不全で亡くなり、エコノミークラス症候群や持病の悪化により死亡する災害関連死もありました。

さらに、福祉避難所が開設されたら認知症の高齢者の方や、障害者、医療等が必要な方など、避難所の運営側として、どんな方をどのタイミングで福祉避難所へ移動してもらうかを考える場面も実際に出てきます。

参加した方からは「災害は想定することが難しく、病人や高齢者も多い中、看護師や医者もすぐには対応できないため、どうすれば良いか素人には分からない。しかし、今回行なってみて気づいたこともたくさんあるので無駄ではないと感じた」という意見がありました。



いざという時に力を合わせて

小坂地区

今回はより実践的な訓練ができるように、ストレッチと、長野県社会福祉協議会より実際の避難所で使用されている、間仕切りと段ボールベッドをお借りして、展示スペースを設けました。訓練参加者が自分たちの目で見て手で触れて、避難所生活について考えていました。段ボールを組み立てて作ったベッドに横になった方から「硬いし痛い。せめてこの上に布団が欲しい。」という意見や、筒状の段ボールを組み合わせて、シーツで四方を囲った間仕切りは「足を伸ばして寝られる気がしない。狭く感じる。」という意見もありました。

小坂地区では、2次避難を終えた住民も参加しました。中大池地区で行なった避難所運営ゲームHUGで使う避難者カードとイベントカードを、開設訓練用にアレンジを加えて作成し、長野県社会福祉協議会の福澤氏の進行のもと、10時に訓練が開始されました。

住民の方には避難者カードを配付し、カードに書かれている避難者になりきって避難してもらいました。避難所の運営は自主防災会の方々が中心となり、受付や避難者の誘導、イベントカードへの対応をしてもらいました。

避難所の受付が設置されるとすぐに、一人目の避難者が訪れました。受付では担当者がそれぞれの事情を聞き取り、公民館の中へ誘導していました。カナリヤを連れてきた避難者に対して「カナリヤはカゴに入っているよね…？」といったやり取りや、「着替えの場所が欲しい」という声への対応を見ていた方からは「部屋の隅の方で着替え場所を囲ってあげていたが、着替えの場所は別室を用意した方がいい。女性の視点も必要だね。」という意見もあり、避難所で起こる予想外の出来事に運営側も対応に苦勞した様子でした。

参加した住民からは「誘導はスムーズだったが、実際には想定外のことが起こるので訓練を重ねることが大切」「個々の備えをしておきたい」等の感想が数多く聞かれました。

福澤氏からは「長野県初の試みで、今回の避難訓練を行なって足りない部分は地区や役場、個人で色々な面で相談して災害に備えてもらいたい」と話がありました。

小坂区長からは、運営側として災害時の備えについての課題や「実際の災害では混乱すると思うので、今回の反省を踏まえて今後に繋げていきたい」と話があり、今後の備えや避難所の運営について考える機会となりました。



上竹田地区

上竹田地区では、小坂地区と同様に避難所の開設訓練を実施しました。訓練の内容自体は変わりませんが、図上訓練とは違って実際に人が動くことで、よりリアルな状況や混乱を再現することができました。

約40名の役員の方が訓練に参加されました。連絡長さんが避難者役、その他の方は運営役に分かれ、さらに運営役は2人一組になり避難してきた方の避難場所への振り分けと、イベントカードの対応をしてもらいました。

上竹田公会堂は平屋建てということもあり、避難スペースが少なく一人ひとりのスペース確保に皆さん苦勞されたようです。熱や咳の症状がある方が来た際には、すでに避難していた方に移動していただき、スペースの確保を行なっている場面もありました。

その際には「小部屋は問題を抱えている世帯や、病気の方が来た時のために空けておいた方がいい」「インフルエンザかもしれないので診察をしてもらい、そのあとの対応も必要だ」という意見がありました。介護が必要な方が避難してきた際には、車いすを使用して避難スペースまで案内していました。

訓練後の振り返りでは「そもそも公会堂はどのような災害でも安全なのか」「医療や福祉等の専門職に力を借りたい」「縦割りの指令系統や情報の集約者がいなくて良いのか」という意見が出ました。

今後その問題については、区や村全体で解決策を考えていく必要があることを、参加者の方と確認することができました。



実際に災害が起こった時は自分たちで避難所の運営をしていかなければなりません。

毎年このような訓練を続けていくことで、自分たちでどうやって避難所を運営し、地区の皆さんが安心して生活することができるのか。私たち社会福祉協議会も訓練を重ねていく中で、それぞれの地区に合った避難所の運営を、皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。

令和元年度(平成31年度)●山形村社会福祉協議会普通会員会費納入結果

令和元年度(平成31年度)の山形村社会福祉協議会普通会員会費納入につきましては、本年度も大勢の会員の皆さまからご協力をいただきました。ここに厚くお礼申し上げます。地域福祉活動推進のために有効に活用させていただきます。

総額 2,799,000円(1,866件) 令和元年9月17日現在

■山形村社会福祉協議会／普通会員会費(1口/1,500円)

(単位:円)

連絡班名	件数	金額	連絡班名	件数	金額	連絡班名	件数	金額	連絡班名	件数	金額	連絡班名	件数	金額
豆沢南	17	25,500	大日	16	24,000	仲町	31	46,500	四ッ谷西	2	3,000	竹原	32	48,000
豆沢北	15	22,500	日向	25	37,500	橋爪西	12	18,000	青葉台	7	10,500	原町	23	34,500
青木沢南	13	19,500	堂村上	12	18,000	橋爪東	51	76,500	本郷東	26	39,000	北竹原	18	27,000
青木沢北	16	24,000	堂村下	10	15,000	下大池下村	19	28,500	南原	1	1,500	竹田原	20	30,000
中耕地西	15	22,500	第一	19	28,500	中央通	41	61,500	四ッ谷中	8	12,000	三夜塚	24	36,000
中耕地東	19	28,500	清水	11	16,500	城ヶ沢	5	7,500	本郷北	11	16,500	南竹原	24	36,000
久保	16	24,000	本殿上	20	30,000	西沖	32	48,000	四ッ谷東	10	15,000	新星	3	4,500
堤南	25	37,500	本殿下	17	25,500	唐沢下	28	42,000	本郷西	19	28,500	若葉	10	15,000
堤北	38	57,000	東殿	10	15,000	四ッ谷上	33	49,500	美の里ヶ丘	17	25,500	野尻西	6	9,000
青木沢中	3	4,500	上北沖	15	22,500	四ッ谷下	34	51,000	唐沢上	17	25,500	野尻東	10	15,000
淀の内	32	48,000	中北沖	22	33,000	原村上	26	39,000	神明	33	49,500	梨の木	20	30,000
上手西	17	25,500	下北沖A	24	36,000	原村東	20	30,000	荒川	14	21,000	中竹原	11	16,500
上手東	16	24,000	下北沖B	29	43,500	宮村	29	43,500	上手村	26	39,000	連絡班外	2	3,000
野際	30	45,000	上中原	28	42,000	殿村	33	49,500	西下	14	21,000			
野際東	10	15,000	中原町	37	55,500	中耕地	31	46,500	北村	18	27,000			
中大池中村	36	54,000	新町	27	40,500	上竹田中村	31	46,500	南中	32	48,000			
中大池下村	24	36,000	小坂台	18	27,000	御判形	41	61,500	北中	19	28,500			
下村東	32	48,000	下中原	10	15,000	下本郷	47	70,500	南堀	33	49,500			
山口	22	33,000	中嶋	19	28,500	新和	27	40,500	北堀	20	30,000			

赤十字の活動資金にご協力をいただきありがとうございました。

令和元年度(平成31年度)日本赤十字社長野県支部山形村分区活動資金収納運動結果報告

地区名	活動資金額(①+②)	定額支援資金額(①)	寄付額(②)
上大池	137,100円	98,000円	39,100円
中大池	116,500円	111,000円	5,500円
小坂	246,000円	193,000円	53,000円
下大池	146,500円	107,000円	39,500円
上竹田	307,500円	220,000円	87,500円
下竹田	308,000円	249,000円	59,000円
連絡班外	11,000円	1,000円	10,000円
合計金額	1,272,600円	979,000円	293,600円

総合計金額 1,272,600円 日本赤十字社長野県支部へ全額を送金いたしました。

山形村社会福祉協議会理事・監事・評議員(新会期就任者名簿)

(敬称略)

理事

中村一博(会長)
 山口隆也(副会長)
 小林かつ代(副会長)
 小林司(常務理事)
 三澤一男
 籠田利男
 大久保英雄
 稲田治喜
 中村哲久
 小林昭五

監事

赤羽千秋
 神通川清一

評議員

福澤倫治
 春日仁
 平沢隆一
 須山正光
 大池孝夫
 増澤武志
 百瀬健一
 大塚恭子

古本政雄
 滝澤隆
 中村清子
 百瀬純雄
 中村よしみ
 百瀬重治
 上條光明
 松村京子

青柳寛
 林和男
 金井さゆり

(令和元年6月28日現在)

令和元年度(平成31年度) 赤い羽根・歳末助け合い 共同募金運動にご協力ください



——— 幸せな地域づくり「赤い羽根」が支えます ———

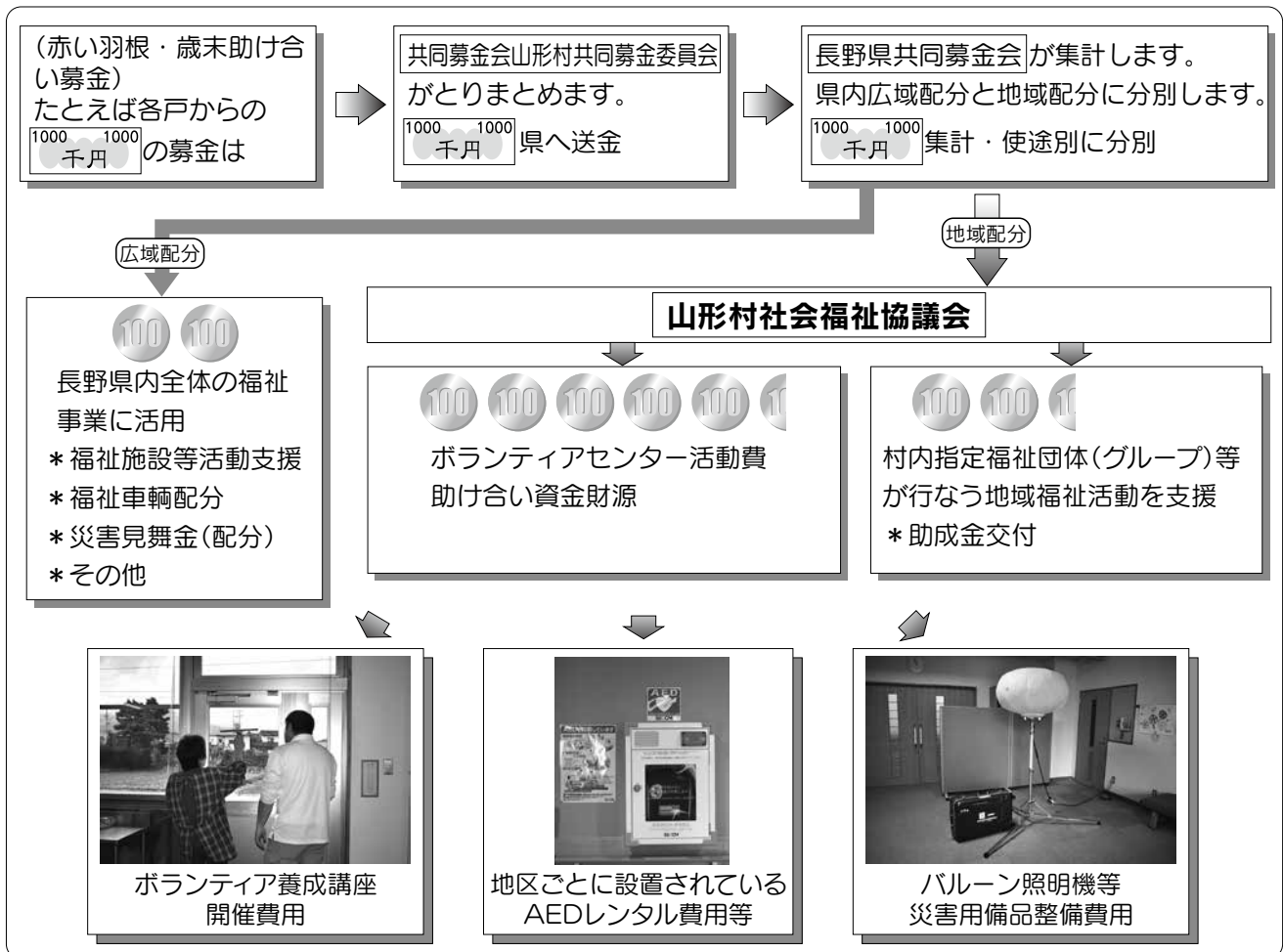
少子高齢社会の今日、地域で安心して生活していくためには、さまざまな福祉サービスが必要です。そのため地域福祉の推進を目的とする社会福祉協議会や民間の社会福祉団体や施設、またボランティア団体等によって、多彩な福祉活動が展開されています。

皆さまからの共同募金は、こうした活動の支援のため役立てられます。

令和元年度(平成31年度)共同募金運動の実施期間 (山形村共同募金委員会の場合)

令和元年10月1日から10月31日まで (日曜日を除く)

- * 山形村共同募金委員会の令和元年度目標額は、1,960,000円です。
- * 各連絡班ごとに集金いただく「戸別募金」をはじめ、「学校募金」、「職域募金」、「村内公共施設募金(箱)」等により、皆さまの温かいご協力をお願いします。
- * 「戸別募金」の例 戸別の募金として、1戸から1,000円の協力をいただいた場合の募金の流れ(イメージ)



長野県共同募金会 山形村共同募金委員会
事務局 山形村社会福祉協議会内 ☎97-2102

子どもひろば楽しみ隊
 ~子どもひろば開催~
 今年も皆で子どもひろばを楽しもうぞ!!
 『楽しみ隊』出動!

8月5日(月)~9日(金)の5日間、子どもひろばが開催されました。

今年には下竹田公会堂(たてべ子どもひろば)と下大池公民館(いこい子どもひろば)の2か所で行われました。100名を超える参加申し込みがあり、両会場共に連日、多くの子どもたちやボランティアが参加し、大盛況でした。

今年も高学年の子どもたち9名が『子どもひろば楽しみ隊』に参加しました。放課後に作戦会議を重ね、今年にはムカデ競争、玉入れ、ジェスチャーゲーム、パズルなどの障害物競争が子ども企画として採用されました。

本番前の準備では、玉入れの玉を新聞紙で作ったり、ムカデ競争の紐を切って用意したり、自由遊びのケイドロで使う宝のメダル作り、ボランティアさんに教えてもらいながら真剣にゴム鉄砲作りに取り組んだり、自分たちも楽しみながら準備をしていました。

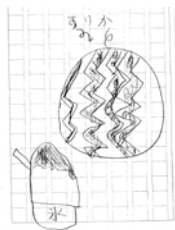
当日は楽しみ隊のメンバーが中心となって企画を進め、低学年から高学年まで、子どもたちみんなが楽しんでいました。楽しみ隊のメンバーは「みんなに楽しんでもらえて良かった」「新しいメンバーに入って欲しい!!」と笑顔で話していました。

今年のプログラムには、自然の川の流れを感じて遊んでもらいたい!と考え、ふれあい児童館裏に流れている三間沢川で川遊びをしました。子どもたちは持ってきた水鉄砲で遊んだり、川の中にいるヤゴやカニを捕まえたり、ずぶ濡れになって大はしゃぎ!他にも、飯盒で炊いたご飯でおにぎりを作って、八幡神社へ皆でピクニック!神社では蟬の抜け殻を見つける子どもや、ビオトープへ行ってフナやヒキガエルを捕まえて、水辺の専門家のボランティアさんの所へ走っていき「見て~!これがとれたよ!」と捕まえた生物を笑顔で見せる子どもたちの姿がありました。

今年も地域の方や、今まで子どもひろばを利用していた中学生や高校生、大学生のボランティアの皆さんにご協力いただきました。

今まで参加してくれていた子どもたちが成長し、ボランティアとして支えてくれている姿を見た6年生の女の子から「来年からは私もボランティアで参加するんだ!」と、うれしい言葉が聞けた子どもひろばでした。

参加した子どもから感想文が届きました!ここでご紹介させていただきます。



子どもひろばのみなさんへ、
 ぼくは、2年生からずっと子ども
 企画で遊んで来ている。夏休
 の楽しいイベントです。今年
 は、ぼくが出来ることが多いか
 と思いましたが、子ども
 の1つ目は、子どもさか
 ず。
 みんなで楽しく遊べた
 こと。
 2つ目は、オレーアイス
 を作って食べること。
 ぼくも
 夜も少し野营をしました。
 みんなで作ったオレーは
 いしかったです。また来年も
 参加したいです。

今年、ぼくたちを見守り、
 ありがとうございます。



楽しみ隊の作戦会議中

大盛り上げの子ども企画



川の中には何がいるかな~?

まほろばトピックス ～事業所のできごと～

デイサービスセンターいちいの里

デイサービスセンターいちいの里では、利用者の皆さんに季節を感じていただけるよう新年会をはじめ、春は桜を見ながらの散歩、夏はかき氷、秋は運動会、冬はクリスマス会など、様々なイベントを企画しています。

皆さんに楽しく過ごしていただけるように、彌磨太鼓さんやジャージーバンドさんなど、たくさんのボランティアさんにご協力いただき、イベントを開催しています。

今年度からは新しい取り組みとして、利用者さんの中から希望者を募り、講師をお招きして絵手紙教室を開催しています。

デイサービスに興味のある方はいつでも見学できますので、お気軽にお問い合わせください。

絵手紙

はじめは「難しそうだし私には無理だ～」と話していた方も、いざ参加してみると、夢中になって力強く描かれていました。参加された方からは「楽しかった！また参加したい」との声が聞かれました。



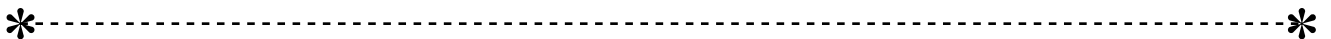
彌磨太鼓

夏休みということもあり、今回は小学生と保育園の子どもたちが来て、勢いのある太鼓の演奏を披露してくださいました。一生懸命な演奏に涙を流して感動される方や、「元気をもらった」と手を叩いて喜ぶ方もいました。



ジャージーバンド

今回は利用者さんのリクエストで、久しぶりにジャージーバンドの皆さんをお招きしました。上を向いて歩こう、高校三年生、北国の春などの馴染みの曲を、ピアノやサクスの軽快な演奏に合わせて一緒に口ずさみながら、楽しい時間を過ごしました。



コミュニティハウス建部の里

こんにちは、コミュニティハウス建部の里です。建部の里は上竹田の建部神社の隣にあり、30数年前まで伝田医院として開業されていた建物をリフォームし、そこで小さなデイサービスを行なっています。古民家風の一軒家のデイサービスは、話し好きが集まり歌を唄ったりゲームをしたりと、とても賑やかです。

利用者の皆さんがいつまでも元気で過ごせるように、自分たちができることを一緒に見つけ、おやつ作りや、週に一度は昼食作りも行なっています。四季を肌で感じていただけるように、運動を兼ねての外出や、外食にも出掛けています。少人数だからこそできることは、皆さんと一緒に喜びを共有し、不安な気持ちがあれば寄り添うこと、だから笑顔いっぱい元気に過ごせるのです。

時には職員の子育ての悩みにのってくださり、私たちも元気をもらうことがたくさんあります。いつでもお気軽にお立ち寄りください。



春のお出かけ♪



慣れた手つきで作る漬物

詐欺被害に遭わないために ～振り込め詐欺等防止勉強会～

8月27日(火)山形村保健福祉センターいちいの里にて『令和元年度 福祉なんでも相談・支援セミナー 振り込め詐欺等防止勉強会』が開催されました。

今年度1回目のセミナーは松本信用金庫協賛の出前講座で、松本警察署生活安全課の方と松本信用金庫営業統括部の方を講師にお招きし、詐欺被害の現状や対策について学びました。

松本市では昨年度19件の詐欺被害があり、被害額は2,115万円。今年度はすでに16件あり、被害額は4,480万円。銀行での振り込みは、行員が気付いて未然に防ぐケースが増えているため、最近は自宅まで受け取りに来ることや、コンビニなどでの手渡しが増えているそうです。レターパックや宅配便の小包に現金を入れて送らせる手口や、孫や子ども、さらには姪や甥をかたる詐欺の被害が多く発生しています。レターパックには約900万円、宅配便の小さい小包には約1,000万円の現金が入ってしまうそうです。

1人暮らしの女性が狙われやすく、最近はアポ電強盗もあり、電話で話をする事で相手に自分の情報を教えてしまうので注意してほしいという話がありました。

家族と合言葉を決めておくことや、詐欺の犯人は録音されるのを嫌がるため、留守番電話にしておいた方がいい等の対策を教えてくださいました。

参加した方からは「日中ひとりで居ることがあるから、気をつけなきゃ。色々な詐欺があることを知れて良かった。」という声があり、被害に遭わないために自分たちでどう防ぐのか考えるきっかけづくりとなったようです。



福祉なんでも相談・支援セミナー開催

終活の基礎セミナー

最近ではすっかりおなじみになってきた『終活』という言葉ですが、具体的に何をしたらよいかイメージしにくい方も多いようです。

今回はエンディングノートの活用と相続税について2部構成のセミナーを企画しました。

ぜひ、お気軽にご参加ください。

日時：令和元年10月29日(火) 午後1時30分～3時30分
(受付開始 午後1時～)

場所：山形村保健福祉センター 研修室

内容：第1部『エンディングノートの活用』

成迫会計グループ 相続手続支援センター松本駅前店

講師：宮澤 美香氏 2級FP技能士

第2部『民法改正と相続税の基礎知識』

税理士法人成迫会計事務所 医療・福祉事業部

講師：木内 綾音氏

参加費：無料

※先着20名様のため、事前予約が必要です。

※ご希望の方は当日、エンディングノートを1冊500円+税にてご購入いただけます。

お申込み・お問合せ

山形村社会福祉協議会／福祉なんでも相談室 電話97-2102 (担当：小松・鈴木)

まほろば (社協広報／第85号) 令和元年9月27日発行

●発行所 社会福祉法人 山形村社会福祉協議会(山形村保健福祉センターいちいの里内)

〒390-1301 長野県東筑摩郡山形村4520番地の1 ☎0263 (97) 2102 FAX0263 (97) 2108

ホームページアドレス <http://poponet-yamagata.or.jp/>

●「まほろば」に掲載せられなかった記事についてはホームページに掲載されていますので是非ご覧ください。

この印刷物は植物油インキおよび再生紙を使用しています。